

## (2) 公開特許公報 (A) 昭62-185545

(5) Int.Cl.<sup>4</sup>H 02 K 21/16  
21/00

識別記号

序内整理番号

M-7154-5H  
7154-5H

(6) 公開 昭和62年(1987)8月13日

審査請求 未請求 発明の数 1 (全6頁)

## (1) 発明の名称 回転電機

(2) 特願 昭61-23957

(3) 出願 昭61(1986)2月7日

(4) 発明者 井上 浩一 横浜市鶴見区末広町2丁目4 株式会社東芝京浜事業所内

(5) 出願人 株式会社 東芝 川崎市幸区堀川町72番地

(6) 代理人 弁理士 井上 一男

## 明細書

## 1. 発明の名称

回転電機

## 2. 特許請求の範囲

(1) 電機子巻線が電機子鉄心の半周スロットに収められ、電機子鉄心あるいは回転子の界磁磁極がスキューされる回転電機において、電機子鉄心のティースの側面子に対向する面にM個 (Mは0又は偶数) の溝を設け、電機子鉄心のスロット数Nsとティースの個数Mと換算率jとの間に  $N_s \times (M+1) / P = j / k$  (jとkは互いに素なる整数で  $m > 1$ ) なる関係がある時  $S = \theta / \pi$  (1 ≤  $\theta < \pi$  では整数) にて求められる1スロット分のスキューさせたことを特徴とする回転電機。

(2) 相数を3とし、  $N_s \times (M+1) / 3P = j / k$  (jとkは互いに素なる整数) で示されるとき、kが割り切れず、かつkが最も大きな値となる様にスロット数Nsを選んだことを特徴とする特許請求の範囲第1項記載の回転電機。

## 3. 発明の詳細な説明

## 【産業上の利用分野】

本発明は電機子巻線が半周溝の電機子鉄心に収められ、電機子鉄心あるいは回転子の界磁磁極がスキューされる例えばACサーボモータに用いられる永久磁石回転電機等の回転電機に関するものである。

## 【従来の技術】

小中容量の誘導機、同期機等では、従来からコイル組み及び固定方法の簡単な半周溝の電機子鉄心が多く用いられている。この様な半周溝の鉄心を用いるとその開口部の影響により磁気回路のバーミアンスが振動するいわゆるスロットリップルが発生する。このスロットリップルは、コギングトルクや起電圧の高調波成分として現われ、性能を悪化させる原因となっている。近年、ロボットや工作機械の駆動装置として使用される様になってきたACサーボモータにおいては、回転リップルやトルクリップルの少なさが重要な要素となつておらず、特にスロットリップルの低減が望まれている。

このACサーボモータにおいては、永久磁石を用

いた同期機形のモータが主流で、通常、第5回に示す様に回転軸に取付けられた円筒状の界磁鉄心の外周面に複数個の永久磁石を貼付け磁極を形成した回転子と、このまわりに詰けられた半閉スロットの電機子鉄心間に電機子巻線側を組めた固定子とからなっている。この様な構成のサーボモータでは通常、電機子鉄心に1スロット分のスキューを施し、スロットリップルを低減する事が有効となっている。

#### 【発明が解決しようとする問題点】

以上の様に入ロットリップル低減のためには、1スロット分のスキューを施すのが有効であるが、このスキューには次の様な問題点がある。第1に輸出鉄心のスロット内面が段々状になりスロット面積が減少し、占敷率が高くなり、巻線の挿入作業性が悪化する。第2にインボリュート歯輪状に巻線を挿入しなければならぬため作業性が悪化する。第3には巻線長が長くなるため電機子鋼損が増加する。又界磁の永久磁石をスキューする場合には、スキュー量に応じて磁石成形型を数多く用意す

る必要があり、又、軸方向長さの短い扁平形のモータでは、スキュー角度が大きく製作が困難である。

以上の様な問題があるため、スキュー量は少なくして、1スロット分のスキューができるスロット数の多い電機子鉄心を採用すれば良いが、巻線の巻回数の低下やティース部の軸寸法の減少等の設計上の制約や製造上の問題、作業性やコスト面等により、スロット数を増加できない場合が多い。

本発明は以上の様な事情に鑑みられたもので、スロット数を増加させることなく、スキュー量を低減することができる回転電機を提供することを目的とする。

#### 【問題を解決するための手段】

上記目的を達成するために、本発明においては、電機子巻線が電機子鉄心の半閉スロットに取められ、電機子鉄心あるいは回転子の界磁磁極がスキューされる回転電機において、電機子鉄心のティースの回転子に對向する面にM個(既は1又は偶数)の溝を設け、電機子鉄心のスロット数Nsとティースの個数Mと極数Pとの間に  $N_s \times (M+1)/P = n/m$

- 3 -

(nとmとは互いに素なる整数で  $m > 1$ )なる開端がある時  $S = l/n$  (1より少く  $m$  でなければ整数)にて求められるSスロット分のスキューをさせることを特徴とするものである。

#### 【作用】

上記の様な手段を講ずることにより、各磁極の中心線の分布が、1スロットピッチに亘って均一に分布することになり、1スロット分より少ないSスロット分のスキューでスロットリップルの影響を除去できる。

#### 【発明の実施例】

##### 実施例1

以下、本発明の第1の実施例について同様を参考して説明する。

第1回は、本実施例による4極の永久磁石回転電機の断面を示す説明図で巻線は1スロット分だけ示し、他は圖の簡単化の為、省略してあるが第5回と同様のものである。第1回において、(1)は界磁鉄心、(21)～(24)は磁極を構成する永久磁石、(3)は電機子鉄心、(51)～(59)はティースで、スロ

ット数  $N_s = 9$ 、極数  $P = 4$  であり、 $m$ 、 $n$  を互に素なる整数とするとき、 $N_s/P = n/m = 9/4$  である。この様な斯くての回転電機において、 $S = l/n = l/4$  (1より少く  $m$ 、 $l$  は整数)にて求められるSスロット分のスキューを行なう。すなわち、1/4、1/2あるいは3/4スロット分のスキューを行なうことになる。

次にこの第1の実施例の作用について説明する。

これは第1回の回転電機で1/4スロットのスキューを行なった場合を示す。第2回(a)において、絶線は永久磁石(21)～(24)の磁極中心線を示し、実線はティース(51)～(59)の中心線を示している。第2回(a)における第1回の位置関係は端部“A”に相当し、軸方向の反対側の端部“B”では1/4スロット分だけ実線と絶線の相対位置関係がずれる様にスキューされている。第2回(b)は、第2回(a)の磁極中心線(絶線)の分布を、1ティースピッチ上に示したもので、各永久磁石(21)～(24)の磁極中心線は、矢印で示した幅の中に分布し、4極トータルでは丁に示した様に1ティースピッ

テ上に均一に分布する。しかも、4極トータルの分布Tは回転子がどの位置にあっても一定であるため、磁気抵抗の変化はトータルで一定となる。すなわち、1/2スロット分のスキューにより、スロットリップルを打ち消すことが可能である。第3図は第1図の回転電機で、1/2スロットのスキューを行なった場合の説明図で、第2回同様に第3回(a)は、磁極(被締)とティース(実締)の相対位置関係を示し、第3回(b)は1ティースピッチ上の磁極の分布を示している。第3回(b)の4極トータルの分布Tは、やはり1ティースピッチ上に均一に分布し、しかも回転子の位置に依存しないため、磁気抵抗の変化はトータルで一定となる。すなわち、1/2スロット分のスキューにより、スロットリップルを打ち消すことが可能である。又、1/2スロットのスキューの場合、1ティースピッチ上に極が2回重なって分布するため、磁極やティースの幾何学的なズレ等の誤差に対し、1/4スロットのスキューより有利であるが、反而、スキュー量は2倍となる。さるに図示していないが、3/4

スロットのスキューの場合も同様に説明でき、1/4、1/2、3/4スロット分のスキューのいずれの場合も、従来の1スロット分のスキューより少ないスキュー量で、スロットリップルの影響を排除することが可能である。

以上は、9スロットの電機子鉄心と4極の界磁の例であるが、一般にスロット数Nsと極数Pとの間に  $N_s/P = n/m$  ( $n$ と $m$ とは互いに素なる整数で  $m > 1$ ) なる関係がある時、 $S = k/m$  ( $k \leq m$  :  $k$  は整数) で示される  $S$  スロット分のスキューを実施すれば、第2回、第3回と同様に1ティースピッチ上に各極トータルの磁極中心線が均一に分布し、スロットリップルの影響を排除することが可能である。第1表はスロット数Nsが6~36、極数Pが2, 4, 6, 8の場合の $m$ の値と、3相電機子巻線を收めた場合の1相1極当たりのスロット数 $k$ の値をまとめたものである。第1表中の☆印は一般的によく用いられる、 $k$  が整数となる整数値を示したもので、この場合、 $m$ の値は全て1となり、最低1スロット分のスキューをしない限り、

スロットリップルの影響を排除することはできない。第1表中で、 $m > 1$  となる組合せを選んで、 $1/k \sim (k-1)/k$  スロット分のスキューを行なえば、1スロット未満のスキュー量でスロットリップルを排除することが可能である。既に、3相電機子巻線を選定したスロット数の鉄心に收めた時、 $q = N_s/3P = j/k$  ( $j$  と  $k$  とは互いに素なる整数) で示される  $q$  の分母  $k$  が3で割り切れる場合、3相の巻線を完全にバランスさせて苦くことができない。結って  $k$  が3で割り切れず、かつ  $k$  が最も大きくなる様な組合せ(表-1の0印)を選らべば、最も少ないスキュー量でスロットリップルがなく、3相バランスした電機子を構成することが可能となる。

以下余白

表-1

Ns	2極		4極		6極		8極	
	m	q	m	q	m	q	m	q
6	☆1	1	2	1/2	1	1/3	4	1/4
7	2	1 1/6	4	2/12	6	7/18	3	7/24
8	1	1 1/3	1	2/3	3	4/9	1	1/3
9	○2	1 1/2	○4	3/4	○2	1/2	○8	3/8
10	1	1 2/3	2	5/6	3	5/9	4	5/12
11	2	1 5/6	4	11/12	6	11/18	8	11/24
12	☆1	2	☆1	1	1	2/3	2	1/2
13	2	2 1/6	4	1 1/12	6	13/18	8	13/24
14	1	2 1/3	2	1/6	3	1/9	4	7/12
15	○2	2 1/2	○4	1 1/4	2	5/6	○8	5/8
16	1	2 2/3	1	1 1/3	3	8/9	1	2/3
17	2	2 5/6	4	1 5/12	6	17/18	8	17/24
18	☆1	3	2	1 1/2	☆1	1	4	3/4
19	2	3 1/6	4	1 7/12	6	1 1/18	8	19/24
20	1	3 1/3	1	1 2/3	3	1 1/9	2	5/6
21	○2	3 1/2	○4	1 3/4	2	1 1/6	○8	7/8
22	1	3 2/3	2	1 5/6	3	1 2/9	4	11/12
23	2	3 5/6	4	1 11/12	6	1 5/18	8	23/24
24	☆1	4	☆1	2	1	1 1/3	☆1	1
25	2	4 1/6	4	2 1/12	6	1 7/18	8	1 1/24
26	1	4 1/3	2	2 1/6	3	1 5/9	4	1 1/12
27	○2	4 1/2	○4	2 1/4	○2	1 1/2	○8	1 1/8
28	1	4 2/3	1	2 1/3	3	1 5/9	2	1 1/6
29	2	4 5/6	4	2 5/12	6	1 11/18	8	1 5/24
30	☆1	5	2	2 1/2	1	1 2/3	4	1 1/4
31	2	5 1/6	4	2 7/12	6	1 13/18	8	1 7/24
32	1	5 1/3	1	2 2/3	3	1 7/9	1	1 1/3
33	○2	5 1/2	○4	2 3/4	2	1 5/6	○8	1 3/8
34	1	5 2/3	2	2 5/6	3	1 8/9	4	1 5/12
35	2	5 5/6	4	2 11/12	6	1 17/18	8	1 11/24
36	☆1	6	☆1	3	☆1	2	2	1 1/2

### 大範例 2

第4図は本発明の第2の実施例を示す回で、第1図の実施例と異なる点は、電橋子鉄心④のティース(51)～(50)のギャップに対応する前に2個の溝を設けてある点である。この2個の溝は、ティースでの磁気抵抗の変化を均一に3等分する様にして設け、見かけ上9スロットの鉄心が、27スロットの鉄心と同様の磁気抵抗の変化をする様にしたものである。このため、9スロットの鉄心で最低1/4スロット分のスキューが必要であったものが、27スロットの鉄心での1/4スロット分のスキュー数に低減される。一般にティースでの磁気変化を均一に奇数個に分割するための偶数個(以降)の溝を設けることにより、スロット数Nsの鉄心が見かけ上Ns×(H+1)スロットと同様になり、スキュー量を低減することが可能となる。

そして、 $M = 0$  の場合が実施例 1 に相当することになる。

### 〔発明の効果〕

以上説明した様に、本発明によればスロット数

$N_s$ と極数  $P$  とティースに設けた溝数  $M$  ( $M$  は 0 又は偶数) との間に  $N_s \times (M+1)/P = n/a$  ( $n$  と  $a$  とは互いに素なる整数で  $m > 1$ ) なる関係があるとき、 $S = \ell/n$  ( $1 \leq \ell < m$  :  $\ell$  は整数) にて求められる  $S$  スロット分のスキューを実施することにより、1 スロット分より少ない  $S$  スロット分のスキューでスロットトリップルの影響を軽減できる。

このため、スロット数を大幅に増加させることなく、又キューブを低減できる回転施機を得ることができる。

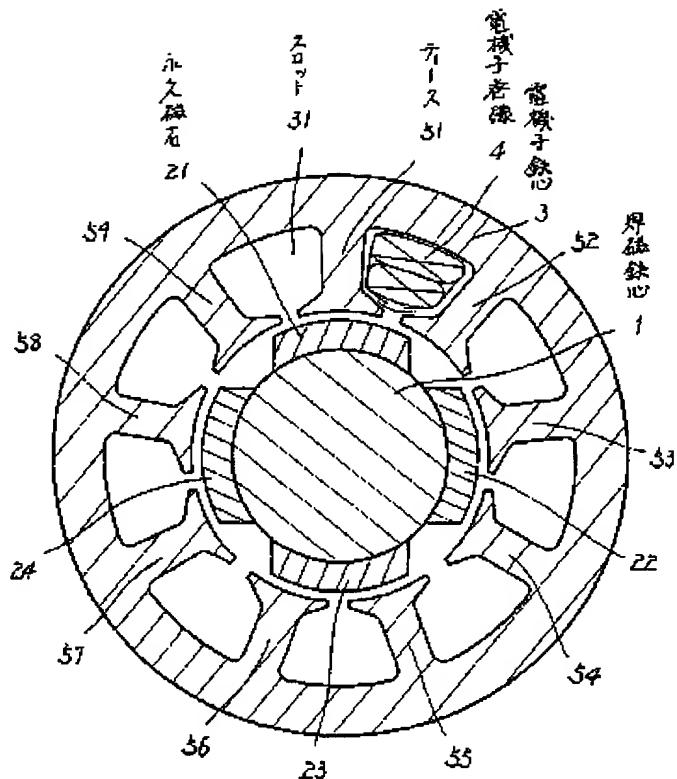
#### 4. 画面の簡単な説明

第1回は本発明の第1の実施例の概略を示す横断面図、第2回、第3回は第1の実施例の作用を示す説明図、第4回は第2の実施例の概略を示す横断面図、第5回は従来の判転機の概略を示す横断面図である。

1 … 界磁铁心、  
 2, 21, 22, 23, 24 … 永久磁石、  
 3 … 亂様子铁心、 4 … 亂様子巻線、  
 5, 51~59 … ティース、 6 … 槽、

- 11 -

- 17 -



第二十

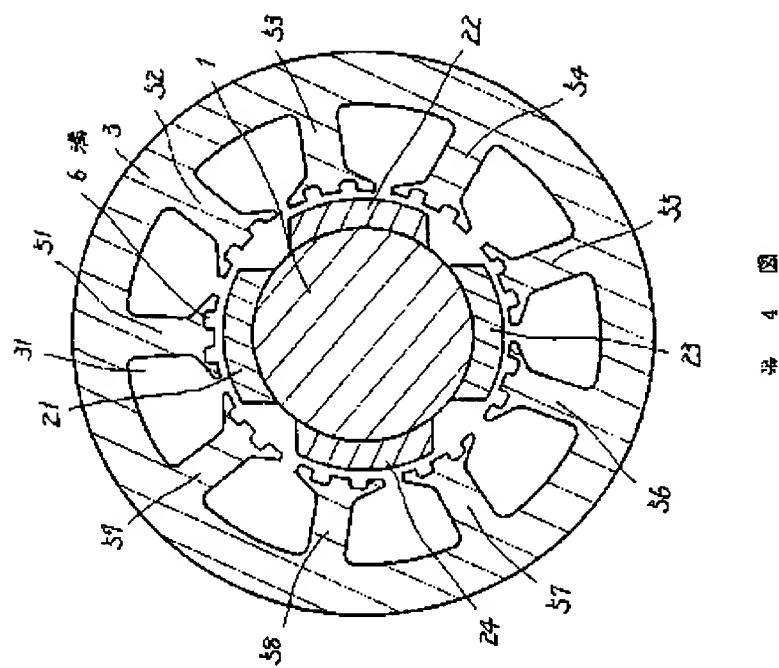
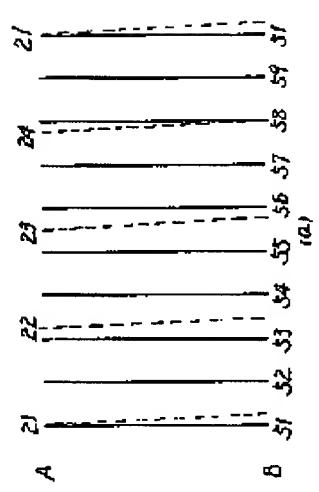
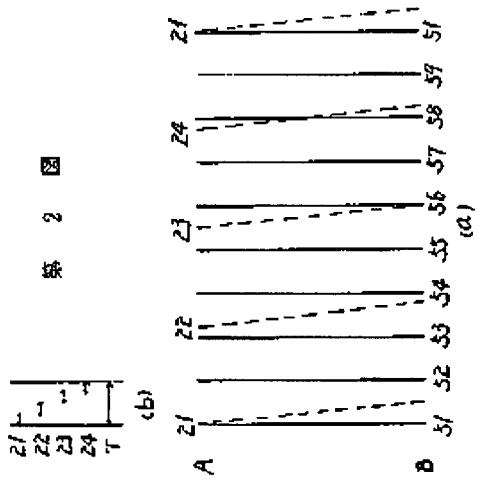


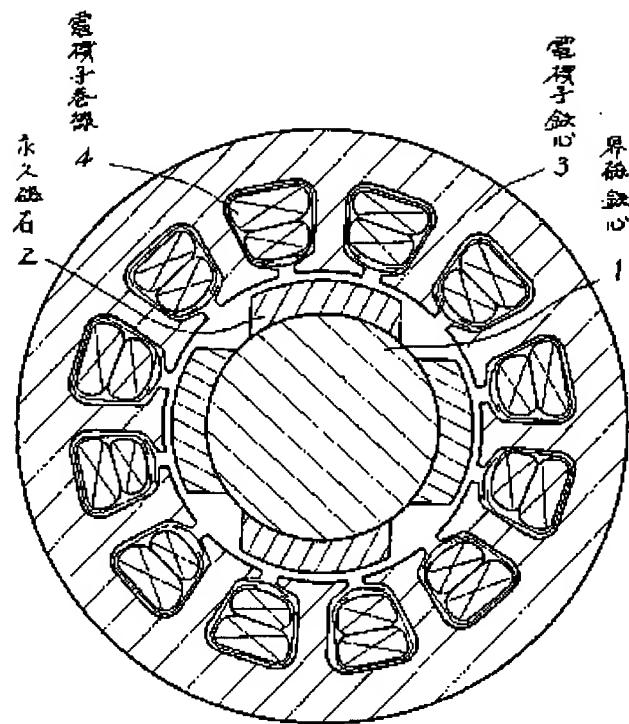
图 4



第 2 国



第 3 国



第 5 図

特許法第17条の2の規定による補正の掲載

昭和 61 年特許願第 33957 号 (特開昭 62-185545 号, 昭和 62 年 8 月 13 日 発行 公開特許公報 62-1856 号掲載) について特許法第17条の2の規定による補正があつたので下記のとおり掲載する。 7 (4)

Int. Cl.	識別 記号	府内整理番号
H02K 21/16 21/00		M-7052-5H 7052-5H

5. 補正の対象

- (1) 明細書の特許請求の範囲の欄
- (2) 明細書の発明の詳細な説明の欄

6. 補正の内容

- (1) 別紙の通り
- (2) 本願明細書第7頁第12行目に記載した「依存しない」を「依存しない」と訂正する。

以上

平成 2, 10, -2 発行

手 続 程 五 書 (自発)

平成 2 年 6 月 18 日



特許庁長官 印

1. 事件の表示

昭和61年 特許願 第023957号

2. 発明の名称

回転電機

3. 補正をする者

事件との関係 特許出願人  
(307) 株式会社 東芝

4. 代理人

〒144  
東京都大田区蒲田4丁目41番11号  
第一蒲田ビル  
大胡特許事務所内  
電話736-3558

(8173) 弁理士 大 舟 典 夫



特許庁

特許請求の範囲

(1) 電機子巻線が電機子鉄心の半閉スロットに収められ、電機子鉄心あるいは回転子の界磁磁極が入キュされる回転電機において、電機子鉄心のティースの回転子に対向する面にM個(Mは0又は偶数)の溝を設け、電機子鉄心のスロット数Nsとティースの溝数Mと極数Pとの間に $N_s \times (M+1)/P = n/m$ (nとmとは互いに素なる整数で $m > 1$ )なる関係がある時 $S = \ell/m$ ( $1 \leq \ell < m$ で $\ell$ は整数)にて求められるSスロット分のスキューをさせたことを特徴とする回転電機。

(2) 相数を3とし、 $N_s \times (M+1)/3P = j/k$ (jとkは互いに素なる整数)で示されるとき、kが3で割り切れず、かつmが最も大きな値となる様にスロット数Nsを選んだことを特徴とする特許請求の範囲第1項記載の回転電機。

# PATENT ABSTRACTS OF JAPAN

(11)Publication number : 62-185545

(43)Date of publication of application : 13.08.1987

(51)Int.Cl.

H02K 21/16  
H02K 21/00

(21)Application number : 61-023957

(71)Applicant : TOSHIBA CORP

(22)Date of filing : 07.02.1986

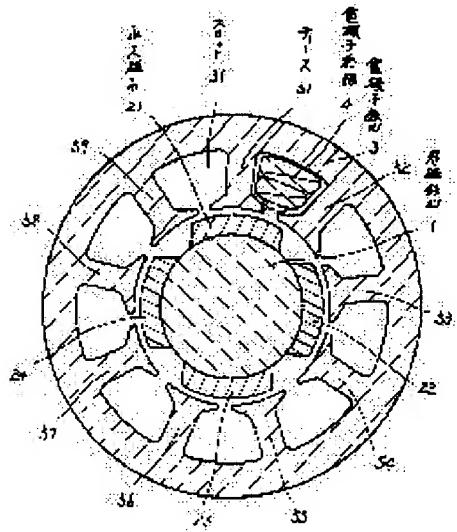
(72)Inventor : INOUE KOICHI

## (54) ROTARY ELECTRIC MACHINE

### (57)Abstract:

**PURPOSE:** To reduce a skew amount without increasing the number of slots by performing the skew of S slots obtained by  $S=l/m$  ( $l$  is integer number in case of  $1 \leq l \leq m$ ) when the relation of  $NS \times (M+1)/P=n/m$  ( $n, m$  are integer numbers) holds among the number of slots ( $NS$ ) and the number of poles ( $P$ ), and the number of grooves ( $M$ ) provided on tees.

**CONSTITUTION:** A 4-pole permanent magnet rotary electric machine is composed of a field core 1, permanent magnets 21~24, an armature core 3, an armature winding 4, and tees 51~59, etc. In the rotary poles having 9 of the number  $NS$  of slots 31, 4 of the number  $P$  of poles and  $NS/P=n/m=9/4$ , the  $S$  slots obtained by  $S=l/m=l/4$  (where  $l$  is integer number in case of  $1 \leq l \leq m$ ) are skewed. Thus, when 1/4 slots is, for example, skewed, the positional relationship between the pole center line of permanent magnets 21~24 and the center line of the tees 51~59 is so skewed that 1/4 slot is displaced at the end of the axially opposite side, the pole center line is uniformly distributed on a tee pitch to reduce a slot ripple.



### LEGAL STATUS

[Date of request for examination]

[Date of sending the examiner's decision of rejection]

[Kind of final disposal of application other than the

examiner's decision of rejection or application  
converted registration]

[Date of final disposal for application]

[Patent number]

[Date of registration]

[Number of appeal against examiner's decision of rejection]

[Date of requesting appeal against examiner's decision of rejection]

[Date of extinction of right]

Copyright (C); 1998,2000 Japan Patent Office